

タンチョウの採食量の調査評価と体重変化のモニタリング

○矢口 茜，宮川悦子
(横浜市立金沢動物園)

当園で飼育するタンチョウ（雄 No.8，26 歳）に必要な採食量を調査することを目的として，過去 3 年間の採食量の調査，及び 2016 年度の給与量の見直しを行った．また，給与量変更の影響を調べるため体重測定と，対象個体が以前から罹患している趾瘤症が体重の増減によって悪化していないかの経過観察を行った．

過去 3 年間の採食量を確認した結果，健康体の維持及び自由生活のために必要なカロリーが 749kcal を下回ることが分かった．2016 年 8 月からはこの目安前後での給与を行った．また，給与量変更の評価を行うため，同時進行で体重計に乗るトレーニングを行った．鳥舎の扉を使用し間接的に強化子であるドジョウを与え，体重計に誘導し，約 1 週間で体重計に乗るようになった．次に，趾瘤症の経過観察のため透明な台を体重計と扉の間に置き，片足を乗せるトレーニングを行った．

給与量見直しにより 2016 年 8 月から 2017 年 6 月までの体重変動は，トレーニングにより以前に比べ細かく把握できるようになった．6 月が最低値で 8.43kg となり，1 月には最高値で 9.84kg となり，秋から冬にかけて徐々に増加する傾向であることを改めて確認した．年間で 1.4 kg と，体重の約 10% 以上の変動があった．見直しを行った後も，趾瘤症を悪化させずに体重を維持できたことから，目安とした給与量の妥当性も確認することができた．

今後も体重測定を継続して行うことで，季節変動の把握や個体の健康管理に生かしていきたい．また，趾瘤症の経過観察を今後も継続していく．